

Noism 対談企画 柳都会 (りゅうとかい)

柳都会

Noism (ノイズム) は、日本で初めての公共劇場専属舞踊団として 2004 年にりゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館に誕生しました。設立から 11 年、新潟を拠点に舞踊作品を創造・発表し、国内各地への巡演はもちろん海外での公演も行い、評価も得てきました。しかし、これから先、ここ新潟で「劇場文化」を根付かせていくために必要なのは、作品発表に留まらず様々な視点から語り合う場をつくっていくことだと考えています。

その第一歩として、2011 年秋より、新潟を拠点に様々な分野で活動されている方をお招きし、芸術監督・金森穰との公開対談を行うシリーズ企画「柳都会」をはじめました。「金森穰がゲストにお聴きしてみたいことを、参加者（新潟市民）とも共有する」という形で、参加者とも意見交換のできる開かれた場として、年間 4 回程度のペースで継続的に開催しています。これまで 11 回、ゲストの方の専門分野を切り口に、新潟という街、芸術について、Noism について…はもちろん、ひいてはそれぞれの視座から見据える現代社会とその問題について討議することで、新潟という地域、そして「劇場」について様々な角度から議論を深めてきました。

2014 年の秋からは、ゲストの拠点を新潟に限らず、「今、ここ新潟で話を聞いてみたい方」をお迎えし、更に広い視野での討議を展開しています。

開催履歴 (これまでのゲスト)

- 第 1 回 2011.10.23 (日) 越智敏夫 (新潟国際情報大学教授)
- 第 2 回 2012.01.15 (日) 迫一成 (hickory03travelers、上古町商店街振興組合理事)
- 第 3 回 2012.04.08 (日) 塩田純一 (新潟市美術館館長)
- 第 4 回 2012.07.15 (日) 小柳雄一郎 (G.F.G.S.代表)
- 第 5 回 2012.10.07 (日) 能登剛史 (「にいがた総おどり」総合プロデューサー)
- 第 6 回 2013.01.20 (日) 城丸正 (S.H.S 株式会社ツールボックス代表取締役)
- 第 7 回 2013.04.07 (日) 伊野義博 (新潟大学教授)
- 第 8 回 2013.07.07 (日) 齋藤正行 (新潟・市民映画館 シネ・ウインド代表)
- 第 9 回 2013.02.23 (日) 山崎繁人 (石窯パン工房サフラン オーナーシェフ)
- ラウンドテーブル「柳都会デラックス」2014.07.13 (日) ※第 1~8 回までのゲストを一堂に招いてのラウンドテーブル
- 第 10 回 2014.09.21 (日) 史佳 Fumiyoshi (三味線プレイヤー)
- 第 11 回 2014.11.16 (日) 宮前義之 (ISSEY MIYAKE デザイナー)
- 第 12 回 2015.02.01 (日) 石川直樹 (写真家)

お問合せ

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 Noism 上杉・堀川

新潟市中央区一番堀通町 3-2 Tel: 025-224-7000 Fax: 025-224-5626 Mail: info-noism@ryutopia.or.jp

柳都会 第13回 松永大司×金森穰

13 回目のゲストは、映画監督の松永大司さんをお迎えます。俳優活動やメイキング監督等を経て、特にドキュメンタリー映画では国際的に高い評価を得ている松永さん。Noism との出会いは 2013 年。以来、毎公演劇場へ足を運び、Noism の活動に注目を続けてくださっています。海外の映画祭へ旅立つ直前にもかかわらず、金森の想いを受けて新潟での対談が実現することになりました。松永さんが映画の道を志した経緯から、自ら原作・脚本・監督をつとめた公開目前の長編映画に至るまで、存分に伺います。

日時：2015.04.19（日）14:30～16:00

会場：ほんぽーと 新潟市立中央図書館〈3F ビーンズホール〉

参加費：無料（要予約） 定員：80 名

主催：公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 共催：新潟市教育委員会

製作：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館



松永大司 Daishi Matsunaga

1974 年、東京都出身。大学卒業後、俳優活動やメイキング監督などを務めた後、性同一性障害の現代アーティスト・ピュ〜ピュを 8 年間追ひ続けたドキュメンタリー映画「ピュ〜ピュ」（11 年）を発表。同作がロッテルダム国際映画祭 2011 ほかに世界各国の映画祭に正式招待され、絶賛される。そのほか短編映画「おとこのこ」、「かぞく」（以上 11 年）、ドキュメンタリー監督作品に、日本総合格闘技 PANCRASE を追った「MMA ドキュメンタリー-HYBRID」（13 年）、ゴスペルの本質を探った「GOSPEL」（14 年）がある。現在、手塚治虫の病床日記にインスパイアされ、自ら原作・脚本・監督をつとめた『トイレのピエタ』（RADWIMPS 野田洋次郎 初主演）が、公開待機中。



金森穰 Jo Kanamori

演出振付家、舞踊家。りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督、Noism 芸術監督。17 歳で単身渡欧、ルードラ・ベジャール・ローザンヌにて、モリス・ベジャールらに師事。イリ・キリアンにその才能を認められ 20 歳で演出振付家デビュー。ネザーランド・ダンス・シアター II、リヨン・オペラ座バレエ、ヨーテポリ・バレエ等、10 年間欧州の舞踊団で舞踊家・演出振付家として活躍後、帰国。04 年 4 月、りゅーとぴあ舞踊部門芸術監督に就任し、日本初となる公立劇場専属舞踊団 Noism を立ち上げる。14 年より新潟市文化創造アドバイザーに就任。平成 19 年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成 20 年度新潟日報文化賞ほか受賞歴多数。www.jokanamori.com

Photo : Kishin Shinoyama

Noism（ノイズム）

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館が舞踊部門芸術監督に金森穰を迎えたことで、日本初の劇場専属舞踊団として 2004 年 4 月設立。プロフェッショナルカンパニー Noism1（ノイズムワン）と研修生カンパニー Noism2（ノイズムツー）の 2 つの集団からなる。Noism1 は日本国内をはじめ海外 8 개국 11 都市でも公演を行い、新国立劇場やモスクワ・チェーホフ国際演劇祭と新作を共同制作する等グローバルに活動。Noism2 は単独公演の他、新潟県内で開催されるさまざまなイベントに出演し、ローカルな活動を展開している。近年では両カンパニー共にサイトウ・キネン・フェスティバル松本へ出演する等、その活動は多岐に渡り、21 世紀日本の新たな劇場文化モデルとして、各方面から注目を集めている。第 8 回朝日舞台芸術賞舞踊賞受賞。www.noism.jp

Noism